

研究所は昭和40年の発足以来、活発な研究活動を続け、本邦のがん研究の一翼を担ってきました。この間、がん研究の基盤となる生命科学の急速な進展に対し、種々の対応策がとられてきました。この2~3年を振り返りますと、平成12年度に組織見直し案が示され、それに沿って、部・室の再編成が進みつつあります。一カ、研究所棟の全面改築も本年1月に終了し、幸いにも最新の設備が備わった実験室で、研究が開始されています。

研究所の使命は、独自性の高いがん研究課題に取り組み、その成果を国内外に向けて情報発信することであり、また同時に最先端のがん研究情報の受信基地としての機能を果たすことでもあります。研究成果の県民への還元的第一步は、当センター病院の患者さんに対し、他の病院とは異なる新しい医療を施行できるように支援することです。研究所の成果を基に、平成12年度には、固型がんの遺伝子診断(固型がんとは、白血病を除いたほとんどのがんを指します。現時点では、次の3項目が診断可能です。(1)胃N/1ALT型リンパ腫の転座型遺伝子検査、(2)肺がんのp53遺伝子検査、(3)胃がん腹腔洗浄液の微小転移のDNA診断)が高度先進医療として開始されましたが、今後は新しい治療と予防を目指した研究を進めたいと考えております。たとえば、昨年ベンチャー企業と国際共同チームにより公表されたヒトゲノム研究の成果(ヒトの全遺伝子情報の解読)を基に、抗がん剤の効きやすさや、抗がん剤を使用した時の副作用の出やすさなどを、各々の患者で前もって知ることが出来るかどうかを研究しています。

又、どの様な人がタバコを吸うとがんになりやすいかなど、発がん要因と発がんとの関連を予見できるかどうかの研究も進めています。この様に各々個人に適した新しい医療(オーダーメイド医療)に向けての研究が重要です。いずれも極めて難しい研究ですが、研究の進み具合を適宜新聞等のマスコミ、講演会、並びにホームページなどを通して県民の方々にお伝え致したいと考えております。

がんセンター研究所長: 高橋利忠



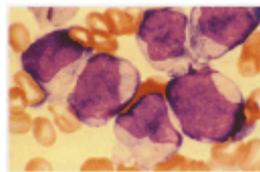
「血液のがんの治癒を目指して」

血液化学療法部長：森島泰雄

白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫などは血液細胞ががん化した腫瘍です。一昔前にはこれらの病気は急な経過をたどり死にいたる不治の病でしたが、今では良く効く治療法が開発され、かなりの患者さんは、がんが治って社会生活に復帰できるようになりました。第1の治療法は数種類の抗がん剤を組み合わせる方法で、がんの化学療法といえます。悪性リンパ腫や急性白血病では約半数から3分の1の患者さんがこの化学療法により治るようになりました。第2の治療法は造血幹細胞移植である骨髄バンクを介した骨髄移植もその一つです。化学療法で治りにくい患者さんにこの治療法を行なうことにより半数以上の患者さんが治るようになってきました。血液化学療法部では副作用がより少なく、より良く効くこれら治療法の臨床研究を進めています。ごく最近ですが、ある種の血液がんでは、新しい薬による第3の治療法が開発されました。劣子標的治療法と言いますが、がん細胞にだけ効いて、正常な細胞には働かない画期的な新薬が開発され、驚くような効果を示しています。



正常な血液細胞



急性骨髄性白血病

がん細胞のがん化のメカニズムが明らかになり、これらの基礎的な研究成果がいち早く治療に取り入れられているのが血液のがんです。がん専門病院として、患者さんに最も適した最新で最良の治療法を提供できるよう心がけています。

「胃がんの克服をめざして」

副所長兼腫瘍病理部長：立松正衛



1. ピロリ菌と胃がん予防

ピロリ菌と胃がんの関係が注目されています。世界に先駆けてピロリ菌感染スナネズミの胃発がんモデルを開発しました。このモデルによりピロリ菌は胃がん発生の強力な促進因子ですが、ピロリ菌自体には発がん性が無い事を明らかにしました。除菌による胃発がんの予防効果も証明しました。また、ピロリ菌に感染しやすいヒトを識別する遺伝子診断のための有望な遺伝子(Se遺伝子)を発見しています。これらの成果をふまえて、胃がん予防のための安全な除菌法の検討を進めています。

2. 微小がん転移の遺伝子(DNA)診断法の開発

がんの治療には転移の有無を早い時期に診断することが大切です。最先端の検査機器(リアルタイムPCR法)を用いて、胃がん手術の際の腹腔洗浄液中の微量がん細胞を、高感度で迅速(手術中)に検出できる遺伝子診断法を開発しました。この診断法で陰性と診断された場合には、再発の危険性がほとんど無く、術後の不必要な抗がん剤の使用をさけることができます。また、今まで困難であったヒトリンパ管内皮細胞の培養に世界に先駆け成功し、試験管内でリンパ節転移機構解析と新しい抗転移薬剤の開発ができる

システムを開発しました。

公開講座のお知らせ

会場:がんセンター内、国際医学交流センターメインホール

回	開催日時	テーマ
1	平成14年7月19日(金) 14:00~15:30 (開揚13:00)	「泌尿器、生殖器がんの診断と治療」 (1)前立腺がんの診断 (2)子宮頸がんの治療 —現況と将来—
2	平成14年8月23日(金) 14:00~15:30 (開揚13:00)	「肺がんを克服しよう」 (1)ここまで来た肺がん診断の進歩 (2)こわくない肺がん手術
3	平成14年9月27日(金) (がん征圧講演会) 13:30~17:00 (開揚12:30)	第1部「がん予防と検診」 (1)がん原性物質から体を守る力 —その1国人差を決める遺伝体質— (2)ウイルスによる病気とがんについて (3)乳がん検診の効果 第2部「がんとうまくつきあう方法」 (1)がんの骨転移 (2)治らなくたって症状がなくなれば—IVRの威力— (3)インフォームドコンセントにおける看護の役割
4	平成14年10月19日(土) (会場:津島勤労福祉会館) 14:00~15:30 (開揚13:00)	「最新のがん医療」 (1)ここまで進んだ大腸がん治療 (2)強い味力のキラート細胞
5	平成14年11月22日(金) 14:00~15:30 (開揚13:00)	「最新の研究成果から」 (1)免疫はがん細胞を認識できるか? (2)ここまで分かった悪性リンパ腫

※詳しくは、運用部事業課公開講座係まで。TEL052-762-6111内線2301・2302

診察医の紹介

今回は**呼吸器科**です。

主に肺癌の診断・内科的治療を行います。診断においては放射線診断部、治療においては胸部外科、放射線治療部と密接に連携をとり集学的治療を行っています。【治療・成績】肺癌は腺癌、扁平上皮癌、大細胞癌、小細胞癌の4種類に大別され、それぞれ固有の発育進展様式を示し、抗癌剤、放射線に対する感受性にも差が認められます。

最近肺癌に対する新規抗がん剤が数種類認可され、また、分子標的治療剤も認められる予定で、治療法及び治療成績の向上がさらに期待できると思います。



部長 副部長 医長 医長
 杉浦孝彦 樋田豊明 吉田公秀 堀尾芳嗣

主な診療案内	平成14年7月1日現在の外来診療担当医一覧です。				
	受付時間:午前8時30分から午前11時30分まで				
	(自動再来受付機)午前8時から午前11時30分まで				
診療科	月	火	水	木	金
総合初診	山雄	杉浦	山雄	森島(大野)	大熊
消化器内科	山雄・加藤・原	鈴木・原	山雄・澤木	中村・澤木	中村・鈴木・加藤
呼吸器科	樋田	杉浦・吉田	堀尾	杉浦・樋田・堀尾	吉田
血液化学療法科	鏡味・田地	森島・小椋・神谷	田地・神谷	森島・小椋・神谷	鏡味
頭頸部外科	長谷川・小川		長谷川・兵藤	(予約制) 寺田(第1) 小川(第2) 長谷川(第3・5) 兵藤(第4)	寺田 兵藤(第2) (午後予約制)
胸部外科	(予約制)	(予約制)	(予約制)	陶山・波戸岡	光富・篠田 陶山・波戸岡
乳腺外科	岩瀬・水谷 (三浦:予約制)	岩瀬・岩田・水谷 (三浦:予約制)	三浦・岩田	岩田・水谷	三浦・岩瀬
消化器外科	(予約制)	金光・望月	加藤・山村 清水	安井・平井 伊藤	(予約制)
整形外科	杉浦・山田	(杉浦:予約制)	山田		杉浦(第1・3・5) 山田(第2・4)
泌尿器科	林		脇田	林・脇田	
婦人科	葛谷・那波	葛谷・中西・丹羽	那波・中西	(葛谷/中西) 那波・丹羽	中西・丹羽
放射線診断科			荒井・松枝	荒井	荒井・稲葉
放射線治療科	不破・古平・立花	古平・古谷	不破・古谷	不破・古谷・立花	不破・古平・立花

※医師名の後の数字は、月の週を表します。 ※変更(休診)等がございますので、お電話でご確認ください

交通案内	市バス「自由ヶ丘」下車徒歩3分
<ul style="list-style-type: none"> ・「名古屋駅」又は「栄」から市バス 基幹2系統「自由ヶ丘」又は「猪高車庫」行乗車(所要約40分) ・地下鉄東山線「本出」から市バス 八事11系統「光が丘」又は「猪高車庫」行乗車(所要約15分) ・地下鉄東曲線「池下」又は「覚王山」から市バス 千種区系統「猪高車庫」行乗車(所要約20分) ・地下鉄東山線「星ヶ丘」から市バス 星丘系統「大曾根」行乗車(所要約20分) 	

<p>情報広場</p>	<p>ホームページ</p> <p>センターのホームページは多くの皆様にご利用いただいております。制作関係者の一人として感謝いたしております。</p> <p>しばらく休んでいました情報広場の「質問コーナー」を「質問コーナーQ&A」へとリニューアルし、7月から再開しました。皆様からいただきました質問を(1)本態と病理、(2)原因と予防、(3)症状と診断、(4)治療、(5)その他に整理させていただき、センターの医師が分かりやすくお答えしています。</p>	
	<p>「腫瘍とポリープの相違」、「緑茶の効果と副作用」、「飲酒量とがんの関係」、「がん転移の早期診断」、「がんの遺伝子診断」等々の質問にお答えしています。</p> <p>センターが開催する公開講座でいただいたご質問を中心に、先生方から提供される最新情報もどんどん掲載する予定です。是非一度ご利用ください。</p> <p>(アドレス:http://www accpref.aichi.jp/acc/tuika/joho/jttho.html)</p>	
<p>所在地 〒464-8681 名古屋市千種区鹿子殿1-1</p>		<p>Tel(052)762-6111(代)</p>
<p>URL :http://m.acc.pref.aichi.jp/acc/</p>		<p>Fax(052)764-2963</p>